

「今の時代は、子どもをほめることが強調されすぎていて、私たち親が子どもの頃と比べると、なにか甘い気がしてならない」という声を耳にします。しかし、本当にそうなのでしょうか。

「ほめること」は、子どもを「おだてること」でも「甘やかすこと」でもありません。むしろ、子どもにたくましさを身につけるための「自己肯定感」を育むなら、わたしたち大人はもっと積極的に子どもたちをほめていく必要があります。

今号では、「『ほめて』伸ばす」をテーマに、「ほめること」の意味や効果などについて考えてみました。日頃、子どもと真剣に向き合い、いま、本誌を手にとり読んでくださっている皆様、「子どもをもっとほめてみませんか」。



① 親が願う子ども像



そのために家庭で大切にしたいこと
子どもの自己肯定感(※)を育むこと
 (うつのみや「親学」の基本理念)

うつのみや「親学」のキャッチフレーズ

**「ほめて」伸ばす
 くらべない あせらない まっける**

子どもの人生を、少しずつ子ども自身に任せていくことが「子育て」です。

※自己肯定感…自分の存在に対する自信であり、生きるエネルギーとなる感情(自尊感情)